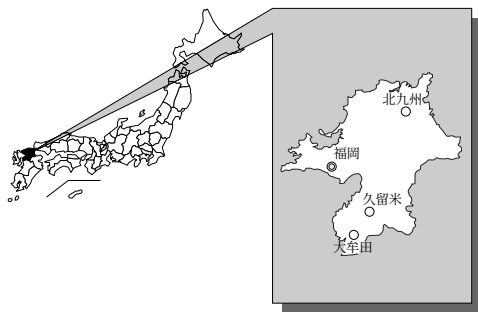


土木紀行

人の歴史を見守り続けて74年 名島橋は、福岡が誇る日本の名橋



福岡県福岡市東区

福岡市東区の多々良川に架かる名島橋は、北九州市をはじめとする北部九州地域と福岡市の都心部を結ぶ東の玄関口にあります。

福岡県の直営事業として、第2号国道改築事務所の手によって、昭和8年に完成したこの橋は、日本では珍しい鉄筋コンクリートアーチ構造の橋です。白く輝く御影石に覆われた優美な姿で、架設以来60年の歳月を九州の発展と地域の暮らしを支えながら、この場所で過ごしてきました。

昭和の初めにつくられた、福岡、そして、日本が誇る名橋、名島橋。きっとこれからも変わらぬ姿で、私たちを見守り続けてくれるでしょう。

九州の大動脈、国道3号線の道路橋として、産業、経済、文化の発展に重要な役割を果たしている名島橋。橋を利用して九州各地へまた、本州へと車が往来しているところです。まさに福岡の東玄関を飾るシンボルです。

また、名島橋は、福岡市街部と東部地区を結ぶ架け橋となり、東部地区の発展に大きな貢献をしてきました。名島橋の完成によって、福岡市東区は、副都心・香椎を中心にして、福岡のベッドタウンとしての役割を果たす地域となり、多くの人々の交流の場をつくっています。

全長204.1m、全幅24.0m という、大きな規模

を誇る名島橋は九州を縦貫する主要国道3号の、箱崎と名島の間を流れる多々良川に架かっています。

名島橋が完成した昭和8年頃の日本は、自動車時代の幕開け。とはいっても、主に鉄道開発に力



が注がれ、しかも、現在のような激しい交通量の時代が到来するとは予想もできないことでした。

そんな時代に、74年たった後も、そのまま通用する、破格の規模の橋が架けられたとは、何とも不思議なことです。名島橋の不思議は、その規模の大きさだけではありません。

福岡県第2号国道改築事務所の所長だった、後藤龍雄氏によって設計されたこの橋は、当時としては珍しい鉄筋コンクリートのアーチ橋。鉄筋コンクリートのゲルバー橋やあるいは、長いスパンの場合には鋼材を用いたアーチ橋やトラス橋を採用することがほとんどだった頃のこと。

ですからこの時代、日本につくられた鉄筋コンクリートアーチ橋は、新潟の万代橋や長野の板戸橋など数が少なく、デザイン的にも貴重な橋なのです。

橋の構造形式には、桁橋やトラス橋などさまざまなものがありますが、渡る距離や地形、必要となる強度などの条件によって決定されます。それぞれ架橋された時代の技術力を反映し、個性豊か

な美しさをもっています。

鉄筋コンクリートアーチ橋、という珍しい構造形式の名島橋は、全体が白く輝く御影石に覆われています。博多湾を前にした多々良川の青い水の上に、7連のアーチを描く名島橋の姿は、力強い優美さを感じてくれます。

潮風による腐食や、圧縮力に強く、重量観を表現してくれるコンクリートという素材を使っていること、関東大震災のときにもアーチ式の橋に被害が少なかったように、耐震性に優れたアーチ橋を選んでいること、耐久性や機能だけではなく、美観を大切にしたすっきりとしたデザインの橋になっていることなどをみると、当時の架橋技術の粋を集めた、非常に進んだ橋だということが、よくわかります。

だからこそ、74年後の今も、全国に誇れる橋となっているのです。穏やかな水の流れを見渡ししながら、御影石の歩道を歩けば、私たちをこの場所ですずっと見守ってきた名島橋の強さと優しさが伝わってくるようです。

